令和6年度 第1回徳島県文化創造審議会 議事録

I 日 時

令和7年3月21日（金）午前10時00分から午前11時30分まで

II 場所

徳島県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】20名中15名出席

美馬持仁会長、藤本真路副会長、井上健委員、木屋村浩章委員、鈴木アヤ子委員、
武市信宏委員、花柳淳吾委員、福田輝記委員、三浦武委員、三宅孝典委員、
宮脇由里委員、森恵子委員、横畠亜希子委員、吉田瑚雪委員、四十宮隆志委員

【徳島県】

佐藤泰司観光スポーツ文化部長、長谷川尚洋観光スポーツ文化部副部長、
春木達也文化振興課長 ほか

IV 次 第

1 開会

2 委員紹介

3 議事

(1) 会長・副会長の選任について

(2) 「徳島県文化芸術推進基本計画」の進捗状況について

(3) 令和6年度の文化芸術関連事業の状況について

(4) その他

4 閉会

V 議事の概要

議事1について委員の互選により、美馬委員が会長、藤本委員が副会長に決定

事務局

議事2、3の資料について説明

会長

ただいま事務局の方から、第1期基本計画の進捗状況と新しい基本計画の説明がありま

した。まずは令和5年度までの報告から、ご意見のほうをお聞きしたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご意見ありましたらお願いします。ちょうどこの期間、コロナがございまして、なかなか思うように、公演等もできず、色々な指導者の派遣事業もできなかったということで、令和5年度から少しずつそれが始まったということが見て取れると思います。先ほどお話の中にもありましたように、その間、オンラインの発信や新たな手法もできたと考えます。そういったことも含め、ご感想でもかまいませんので、どなたでもご意見をいただけたらと。

委員

中学生も、昨年、今年と、色々な文化活動を見ておりますと、本当にいきいきと活動しているというのが感想でございます。やはりコロナ禍で、歌うことは悪というような、音楽の授業も、輪になって一緒に顔を見ながら歌っていたところを、外に向けて歌ったり、歌うことさえ駄目になったり、先生方も苦しい思いをして、鑑賞ばかりしてどうするのみたいな。本当に苦しかったです。昨年から本格的に全ての色々な大会、コンクール、そして中文祭も熱心に行われるようになり、子どもたちのいきいきした顔をたくさん見ることができるようになりましたので、本当にありがたいと思っています。こういう施策はコロナのときにはなかなかできなかったのですが、昨年度から盛り返すように色々なことができたことはよかったです。また今後、次年度からもさらに色々な形で新しいことにもチャレンジしながら頑張っていきたいと思っています。

会長

実施主体であります文化振興課の方からも、なかなか難しかったとありました。実施をする、色々な催しをするにしても、難しい部分もあったと思いますが、どうでしょうか。

委員

コロナの全盛期のときにはあわぎんホールも休館ということで、非常に難しいところでした。特に事業の主体者として、やっていいのかどうか、まさか事業をやって怒られるというような時代が来ると思っていなかったということで、非常に戸惑った数年間を過ごしてきたと思います。ただ、近年、皆様にいきいきとあわぎんホールを利用いただけるようになり、おかげさまで主催公演が満席のときもございます。ちょうど県の計画も第二期ということで、あわぎんホールとしてもさあこれからだと思っているところでございます。

委員

コロナ禍の時は、今、皆さんおっしゃる通り、止まった状態でしたが、1つ生まれたことがあると思います。それはオンライン配信。最初は実験的にやってみて、なんとなく軌道に乗って、ずっと配信だけでコンサートをやっていたこともありましたが、ここに来て、リア

ルでコンサートを開催することと、同時配信を行うことで、ホールで生演奏を楽しんでいただく方と、それを同時に全国あるいは世界に向けて発信できるという利点も生まれたのかなと思っています。そういうことを活用しながら、この令和6年度以降については、それぞれに考えていけたら面白くなると思います。

会長

ありがとうございます。ご提言をいただきました。実際リアルで見ていただくというのは、これは基本ですが、それと同時に、来られない方、遠方の方、県外の方、そういった方にオンラインで同時配信できるのであれば、今後そういったものを活用すると、もっと多くの観客の動員もできるのではないかと、普及できるのではないかとご提言をいただきました。

委員

徳島市でも文化芸術活動の事業を実施していますが、コロナ禍では事業をされる方も敬遠して、そういう機会がぐっと減ったと実感していました。コロナ禍が明け、様々な事業を展開できるようになりましたが、コロナ前と同じような事業を続けるのではなく、コロナ禍で改善すべきところを見据えて新しい事業展開を模索しながら実施しているところです。具体的に、資料2「とくしま夏の音楽祭」のところで、令和4年度から5年度にかけて参加される方が多くなってきていますが、工夫や新しい視点から改善されたことがあれば、今後の私どもの事業の展開にも参考にさせていただきたいと思います。

事務局

ご質問ありがとうございます。資料2の1ページ目「とくしま夏の音楽祭」につきまして、一応学生さんは中学の吹奏楽部を対象にさせていただき、社会人の方についてはホームページで応募しているというところで、今までのやり方を継続させていただいたところです。令和元年の2350名という人数については、令和元年はクラシック、ジャズ、邦楽の3分野で実施させていただいたのでこれだけの人数になっていますが、令和4年、5年はクラシック部門のみということになってしまいましたので、残念ながら、人数的には元の数字には戻っていない状況です。

会長

せっかくのご提言ですので、先ほどのご意見にもありましたように、新たに今までと違ったやり方が考えられるものがありましたら、今後取り入れていただければと思います。ありがとうございます。それでは、議題3の議論等でもかまいませんので、コロナ禍のことも含めて、今後このように推進してもらいたいとか、ここはどうなっているのか、現在どうなっているのか、といったご質問等もあわせて、ご発言ください。新たな視点が加わることも大事なことだと思いますので、今までの文化芸術の振興の上に、今度はそれを活用して、人材

の育成と共にまちづくりや観光に資するような文化芸術をということで、環境づくり、地域づくりという点でご意見等ございましたらよろしく申し上げます。

委員

徳島の文化を担う人づくりの中に徳島県民文化祭の開催がございます。徳島大学の教授の依岡先生が「新・読書のススメ」を徳島新聞社から本を出されていますが、それを基に、昨年、部門別プログラムで、文芸評論家としてノンフィクション大賞などを受賞されており、有名な著書「なぜ働いていると本が読めなくなるのか」という本を出された美馬市出身の三宅香帆さんをお迎えして、講演と対談をさせていただきました。注目されている方ということもあり、とても盛り上がりまして、充実した会にすることができました。昨年はそのように、部門別プログラムがございましたので、設定しやすかったのですが、今年からそれがなくなり、ちょっと開催が難しいなという感じになっております。まだそのあたりがよく理解できておりませんので、詳しく教えていただきたいと思っております。

会長

ありがとうございました。県民文化祭について、それぞれの分野での参加が少し難しいというご意見がありました。開催方法を事務局からご説明いただけますでしょうか。

事務局

徳島県民文化祭開催委員会事務局を当課で行っております。徳島県民文化祭の部門別プログラムに関しましては、令和6年度開催の委員会の中で、「来年度から部門別プログラムを共催事業に統合する」提案をお示しし、承認をいただいたところです。部門別プログラムに関しては、これまで県民文化祭の主催事業として、県内各分野を代表する文化団体の力をお借りしながら、それぞれの分野の取り組みを行っていただいたところですが、県民文化祭の主催という位置付けの中で、限定的に取り扱うよりは、それぞれの団体様の企画力や、自由な発想をよりどころに、より幅広くに事業展開をしていただける体制を考え、このたび変更させていただいたところです。これまでは、県民文化祭開催委員会の主催事業という位置付けだったため、文化振興課が扱っている文化団体様向けの補助金制度を活用いただけませんでした。このたびの変更を機に、当課で執行している補助金もご活用いただける形に整理させていただきました。補助金の活用を通じて、事業規模の拡大やスケールメリットの発揮に向けたご支援を考えているところでございます。

会長

ご説明いただきました。主催事業が共催事業になり、補助金の利用ができるようになるということで、今までのような事業を引き続き行っていきながら、拡大をしていく形で同じように続けていくことが可能であるということでしょうか。

委員

変わったことは説明いただきましたが、締め切りが早く、2月だったため、大変でした。

事務局

補助金の締め切りについては、4月1日から事業を実施していただけるように、できるだけ3月中に補助金の内定通知を出したいと考え、締め切りも早めております。できるだけ皆さんに活用していただきたいという思いで職員もおります。また、不明な点等あれば個別にご説明させていただきますので、よろしくお願いします。

会長

よろしいでしょうか。それでは、それぞれの団体のことでも構いませんので、ご意見等ございましたらお願いいたします。

委員

第1期の進捗状況から、すりあわせみたいなことを申し上げたいのですが、第2期の徳島の文化を担う人づくり、一番目ですね、これの第4項目「文化活動への若者参加」、そういったところで、皆さんお手元等にお配りしてあると思いますが、「瀬戸内デザイングランプリ」という、昨年徳島穴吹カレッジさんの主催で、日本グラフィックデザイン協会徳島地区の共催という形で初めて開催させていただきました。小中高校生を広く扱うコンペティションですが、もともとグラフィックデザイナーの新村則人さんからお声がかかりまして、この方を実行委員長として開催されているものです。もともとは瀬戸内周辺の県から始めようということで、ご出身の山口から始まり香川へ、そして、なんと3番目に徳島ということになり、徳島は果たして瀬戸内と呼んでいいのかという議論もありましたが、是非広げてほしいということで、去年初めて開催させていただきました。まだまだ知名度が高くないので、作品も50点ほどしか集まらなかったという実情がありますが、今後の展開として、2025年度のテーマは「動物」ということで、告知物の制作にこれから関わろうとしている段階でございます。いずれは、瀬戸内各県との連携が想定されるということで、新村先生もおっしゃっていましたが、そうでなければ瀬戸内という名前の広がりにはふさわしくないのではないか、という期待も込めてやっているところです。

2点目は、第2期の計画の2番目に当たる徳島の文化を感じられる環境づくり、これの1項目「文化芸術の鑑賞機会や発表の場の充実」に該当すると思われませんが、昨今、ホールの問題で揺れていたところはありますが、ようやく1つの方向に向かい始めた、ということで、これから期待を込めているところでございます。ただ、発表の場はともかく、鑑賞の機会が本当に少なく、私個人で言えば、見たいものは県外に行かざるをえないという状況は変わりません。最近、アニメーションや映画音楽のコンサートはすごく増えており、特定のアニメのサウンドトラックを演奏するという人で集められる時代になっており

ます。そうしたコアなファンから始まったものではありませんが、コロナ以降、本当にアニメの勢いは増すばかりでありまして、生演奏で映像を上映するシネマコンサートは、ものすごく広がりを見せております。こういうものが徳島には一切来ないというのが、本当に残念だと個人的には思っております。新ホールについては、ぜひこのあたりを念頭に置いた文化施設になってもらえるとありがたいと思います。

あと一つ、前回の進捗状況では、4K、VR、新技術を活用したコンテンツの制作を進めているという報告がありました。最近でも、皆さんお耳にしたことがあると思いますが、デザイン映像の分野では、生成AIが無視できない存在になっております。無視できないというのは、これを果たして芸術として認めていくのかという議論はまた別の問題ですが、そういった生成AI技術も絡めて、やはり文化のあり方、グローバル化のあり方は考えていかなければならないと思っております。僭越ですが、私は四国放送の一員でありまして、コンテンツ産業の一翼を担っております。何かご協力できることがあればと常々思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

会長

ありがとうございます。3つのご提案をいただきました。まず1つは、「瀬戸内デザイングランプリ」、こちらは今年も、2025年度もできるのですね。

委員

はい。毎年実施する方針で固まっております。

会長

なるほど。今年のテーマは、瀬戸内の動物ですか？

委員

いえ、そういうわけではありません。たまたま、コンペティションが「瀬戸内デザイングランプリ」というタイトルで始まりましたので。今は県ごとで開催していますが、いずれは県をまたいで、その壁を取っ払って大きなコンペになれば、それだけ繋がりができてくるよねという話をしています。

会長

なるほど。今日は中学校文化連盟、高等学校文化連盟の代表の方もいますし、ぜひ、徳島も瀬戸内の一員であるということで、広げていければなと思っておりますので、ご協力のほどお願いいたします。それから、ただいまご意見いただきましたことについて、例えばシネマコンサートなどについて、事務局の方からお願いいたします。

事務局

新ホール関係でご意見をいただきましたので、お答えいたします。鑑賞機会の提供が重要である、というご意見をいただきました。確かに今、県内に大規模ホールが無いなかで、鑑賞機会もやはり減少している傾向の中で、皆さんのお声をお聞きしましても、例えば関西方面といった県外に、コンサートや、演奏会に行くというお声もたくさんお聞きしています。そういったことも踏まえまして、県としては、実際の興行公演をされているプロモーターの担当の方に、どういったことを実現すれば、より魅力的な興行公演を誘致していけるのかということヒアリングしまして、藍場浜公園西エリアにおける新ホール整備の早期整備プランの策定に向けて、進めているところでございます。このプランにおいても、ホールの使命として、優れた文化芸術を鑑賞する機会を提供することを重要なところと位置付けております。その実現に向けて、プロモーター、県内の文化団体等の皆様のご意見もお伺いしながら、充実した舞台機能、舞台の広さや搬入搬出、そういった機能を高めながら、興行公演だけでなく、文化団体の皆様に使い勝手のよいものにして、県民の皆様に魅力的な鑑賞機会を提供していければと考えております。

会長

先ほどの資料2の5ページに、観光情報サイトの総アクセス件数がありましたが、令和4年度から令和5年度については減少しているということで、県内の催し等の情報を県民の皆さんにできるだけ示していくということが非常に大事なことではないかと思えます。新しい内容の、特に人気のあるようなメディアのコンサートをやってほしい、でも今は大きなホールがないとか、または修理中とか、そういうところが多いですが、県内にはいろいろなホールがございます。また、徳島文理大学のむらさきホールなど、素晴らしいホールがありますし、各地の小規模ホールもできるだけ公表していくことも大事だと思いますので、そういった情報を一元管理できるような形をしっかりと活用してもらおうということを頑張ってもらいたいと思います。よろしくお願ひします。

事務局

先ほどグローバル化のお話もありましたが、その1例を申し上げますと、今年度については、県の所管する阿波十郎兵衛屋敷はすでに多言語表記を実施しており、上演時のセリフを英語で翻訳しております。それに加えて来年度、中国語の繁体字・簡体字、韓国語、さらにフランス語の多言語化にも取り組もうと計画しているところでございます。また、先ほど会長のお話にあった、資料2の5ページの観光サイトのアクセス数についてですが、令和4年度が増えて令和5年度は減っているというお話もございましたが、実はコロナの影響下で、令和4年度新型コロナ対策としての旅行支援の助成制度がございまして、その検索数がここに載っているという実態があります。令和5年度については支援制度が無くなりましたので、元の件数に戻ったと分析しております。

会長

ありがとうございます。ただ目標620万件なので、もう一息頑張ってもらいたいと思います。先ほど、多言語表記でフランス語もできるということでしたが、大学にもフランス語圏の留学生が多くおりますし、西阿波のほうにもフランスの方が多いと聞きますので、できるだけPRしていただけたらと、よろしく申し上げます。

委員

今回初めて出席しているものですから感想みたいな話になりますが、第1期から第2期にかけての施策体系は、すごく分かりやすく見直されたと感じました。高等学校文化連盟は、高校生の人づくり、文化芸術に係る人づくりという大切な役割を担っていると思っています。令和4年度、5年度、そして今6年度なのですが、高校生は次第にマスクを外せるようになってきて、互いの顔を見ながらそれぞれが取り組みたい文化芸術活動を行えるようになってきました。その点では大きく前進したというか、平常に戻ったという喜びを感じています。高校生にとっては本当に大事な部分です。学校現場からすると、茶道、華道など、いろいろな専門家の方に外部講師として来ていただけることは大きな支えで、専門的に学ぶことができますし、また文化芸術活動の本当の楽しさを知ることにもつながっています。今現在は、そういうことをコロナ前の状態で行えていますので、学校として本当に充実し始めた、そういう状況になってきました。すでに報道等でも出ておりますが、演劇部門において、令和5年度、6年度と徳島県の高等学校が日本一の最優秀賞を2年連続で受賞したことは、コロナ禍で活動に制限がある中、文化芸術活動として一生懸命取り組んできた成果の1つだと思っています。若者が同じ年代の者同士で意見を出して刺激し合いながら文化芸術活動に取り組むことが大事なことだと感じています。グローバル化のことも「環境づくり」に明記されていますが、例えば私が勤めている城東高校では、先ほど会長からお話のあったフランス、今日現在も20名がフランスの姉妹校を訪問中です。徳島の文化をフランスの高校生に紹介したり、アジア圏の国では、インドネシアの高校とも相互訪問をしたりしています。来県したときには、阿波おどりや藍染め体験といった活動を紹介することで、徳島の高校生にとっても、徳島の魅力の再発見に繋がっていると感じています。最後に1つ、課題の話ですが、やはり今、人口減少が進んでいますので、指導者の件についても、各文化団体の専門家の方が、学校とアクセスしやすい状況になって、指導していただいて、そういうことがあって初めて、県内全域で文化芸術活動を人づくりの面で推進できるのではないのかと感じております。

会長

はい。ありがとうございました。特に部活動、特に中学校は、活動の外部委託がこれから進んでいきます。また高校においても、特に徳島市内はまだいらっしゃいますが、各地の町

村の方に、いろいろな指導ができる方が非常に少ないということで、学校との協力をこれからまた整備していくという、そういったことも努めていただければなと、よろしくお願いいたしますします。

委員

2回目で申し訳ありませんが、1つお尋ねします。11ページの「県民主役の文化活動の促進」というところで、令和10年度は目標が2万4000人になっています。次のページの「文化芸術団体の活性化」に「部門別プログラム」がございます。この令和10年度の目標が2万3000人になっています。よくわからないのですが、一緒の数字ではないのでしょうか。

事務局

11ページの2万4000人は、県民文化祭「メインプログラム」と「部門別プログラム」の、両方を足した数字となっていて、12ページは「部門別プログラム」だけを取り上げた数字ですので、この差は「メインプログラム」の差ということです。

委員

「部門別プログラム」という名称もなくなりますか？

事務局

はい、なくなります。この点については、来年度の会議で見直しについてご審議いただきたいと考えておりますので、次回の会議で提案させていただきたいと思っております。

委員

ありがとうございました。もう1点付け加えさせてください。実は昨年、先ほど申し上げた読書のススキの講演会とともに、私自身が読書会をしております関係で、「安部公房生誕100年記念」の講演会を、研究者として有名な早稲田大学の鳥羽先生を迎えて開催いたしました。その際、「徳島大学創立150周年応援プロジェクト」という冠をいただき、開催し、そして成功することができました。この徳島県の4大学と県の文化事業のコラボと申しますか、そういう形ってとてもいいなという感想を受けましたので、今後とも関係することがございましたら、「応援プロジェクト」というような冠をいただいて、共に徳島の文化の向上を目指していけたらという思いでおります。よろしくお願いいたします。

会長

ありがとうございました。今日もいくつかの大学が来ておりますので、持ち帰りましてですね、今後できるだけご協力できるような体制を作っていきたいというふうに思っております。

ますので、また、よろしくお願いいたします。

委員

私は現在四国大学で書道について学んでおりますので、その観点から 1 点。教員を目指しておりますので、先ほども話題に上がりました文化部活動の地域連携移行について、少し申し上げたいと思います。私は今現在、大学 4 年生ですが、この 1 月から 3 月は、徳島の高等学校で書道の非常勤講師として、勤務させていただいております。その勤務校の部活動についても、外部から書道教室の先生がいらっやって、指導をしておられるという状況です。非常にすばらしい取り組みがいっぱいあると思いますが、私どものように、書道を学校現場で教えたいという教員からすると、授業時間内だけでは専門的に教えることに限りがありますので、どうしても部活動の時間を使って、より深いところまで、生徒に教えることができるとも思います。ですので、地域連携移行はこれからどんどん進んでいくと思うのですが、学校現場にいる専門教員のプロフェッショナル部分も生かしながら、このような取り組みを進めていただければありがたいと個人的には思っております。

会長

ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。今日も先生方がいらっやるので、持ち帰って共有いただければと思います。

委員

私も現在大学 3 年生で徳島文理大学の音楽学部にも所属しています。私が入学した年はまだ新型コロナウイルスの状況が深刻な時期だったので、演奏会などの回数もすごく少なかったのですが、今年になり、演奏する機会をたくさんいただけてとてもよかったと思っています。コロナ禍になりオンラインで、YouTube 配信などで演奏会を配信できるのは、今の時代だからこそできたことだと思いますので、すごくいいなと思っています。私も将来教員を目指そうと思っていて、この 11 月から 1 月くらいまでの間、徳島市の部活動サポーターとして、中学校の吹奏楽部に講師として教えに行かせていただきました。自分の特技を生かして地域に貢献することができて貴重な体験をさせていただきました。

会長

ありがとうございました。「人づくり」という点で、そういうサポーターを増やしていただくとすることは非常にありがたいことで、うれしく思います。今後ともよろしくお願いいたします。

委員

私の立場としては、文化振興のためにですね、いろいろ情報をいただければ、放送を通じ

て協力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

会長

やはりメディアの方々のご協力というのは非常に大きな影響力がございます。できるだけ、いろいろな行事について、メディアの方に提供するのはすごく大事なことだと思いますので、また皆様方ご協力のほどよろしくお願いいたします。また県の方もできるだけメディアを使ってお願いします。では、行政の立場で。

委員

最初から全体で聞いておまして、この期間はほとんどコロナ禍というところで、本町におきましても、施設やイベントがほとんど中止という形で、ようやく今年度くらいから本格的にイベントないしそういった会館も本格稼働で進んでおります。そして、コロナ禍においても文化活動を、板野町でも文化芸術団体等いろいろありますが、そちらについても、貸し館等をすべて中止、イベントも中止という形で、大分迷惑かけたところがありますが、ようやく5類に移行されたということで、大分皆さん元気に、開催回数が増えたり、もっと活動したいということで、いろいろ要望が上がったりしております。イベントを実施するにしても、資金的な問題もありますので、町の方で補助はありますが、また県の方も連携していただけたらと思います。それと、行政の立場ではありませんが、私の自宅が、四国霊場八十八ヶ所の三番札所の隣にあるのですが、ここ最近、コロナ明けくらいから劇的に変わったのが、歩き遍路さん。今まではお年寄りとか、そういった方が夫婦で歩いたり、一人で歩いたりされていましたが、今はもうガラッと変わって、10人中9人、ほぼ10人が外国の方。外国の方は四国にやってきて88ヶ所回るというところに魅力があると思うのですが、やはり県ないしその辺の団体からの情報発信によって、インバウンドといいますか、興味を持っていただいて、来ていただけたのかなあと肌で感じております。十郎兵衛屋敷もまた多言語化というところもありますので、この情報発信も踏まえて、私も見る限り、様々な国の方を見かけますので、またその辺の対応をお願いできたらと思います。よろしくお願いいたします。

会長

ありがとうございます。多言語化について、今ひとつ大きな提案ということ。四国八十八ヶ所、私もこの頃よく思います、かなり外国の方が増えていると。広範囲に影響がありますので、それぞれに、せっかく行くのに回るだけじゃなくて、その近辺のいろんな催しや施設も見ていただいており、やはり効果があると思っておりますので、多言語化を含めて、またよろしくお願いいたします。

委員

人形浄瑠璃振興会です。阿波十郎兵衛屋敷やNPO法人阿波農村舞台の会と一緒に活動し

ているということで、いろんな方に振興会を知っていただけるようになったということもありますが、コロナ禍のときは、手洗いの人形浄瑠璃をしたり、それをYouTubeで配信したりしていました。ちょうど休館中で、人形座さんとか太夫さんの新しいもの、コロナだからみんなで手洗いしましょうということで、「こうして洗うんだよ」みたいな。人形浄瑠璃で作る動画をYouTubeで配信したり、他の演目もYouTubeで配信したり。意外と、外国の方や県外の高校生がYouTubeをご覧になって、こういう新しい人形浄瑠璃をすところに行ってみたいということで、コロナ明けくらいに研修や修学旅行を兼ねて、十郎兵衛屋敷に来られることもありました。今、コロナ禍がおさまり、皆さんの旅行の仕方が変わってしまい、今までは特に団体の大型バス、50人定員で45人ぐらい乗って来ていましたが、今は大型バスでも10人、20人ぐらいですね。そういう大型バス自体も少なくなったり、旅行形態として団体旅行が少なくなり個人旅行者が増えたりというところでは、外国の方のほうが割合興味を示されて、グループで来られることもよくあるようです。まだ、コロナ前までの水準には戻っていませんが、回復しています。また、県内外から人形浄瑠璃を派遣してほしいということで、いろいろと行かせていただきました。この「グローバル」のところに載っていますが、アメリカ公演や、ドイツ、今年度は特に、海外航空路線ができたということで、あちらのプロモーションにも出席させていただきました。いろんな場面で、たくさんの方に、人形浄瑠璃を知っていただく機会が増えてきたと感じています。また、去年は、高校や中学校の人形浄瑠璃民芸部の入部希望者が非常に多く、卒業した部員以上の新入部員があったということで、顧問の先生方が非常に喜ばれていて、それもやはり、いろんなところに出向いて行ったことが影響しているのかなと思っています。今までずっと、十郎兵衛屋敷の館長がいろいろ広報されたり、いろいろなアイデアで挑戦したりしてきたことが、10年ちょっと経ち、実を結びつつあると感じています。県民の方々にも、「十郎兵衛屋敷があったんやな」とか「人形浄瑠璃しよったんやな」と感じていただいて、「子どもの頃に来た印象が強くて大人になってから十郎兵衛屋敷に来たことなかったけど、来てみたら意外といいな」というふうな感想をおっしゃる方もいらっしゃいますし、少しずつ、だんだんと、実を結びつつあるのかなと感じています。

委員

毎回同じことを申し上げているので申し訳ないですが、やはり、どこも同じように、会員の加盟不足といいますか、減っているわけですね。そんな中で、毎年秋に、日本舞踊協会徳島県支部として、あわぎんホールをお借りして公演を開いています。毎年開くことは全国的にも非常に珍しく、3年に1回、せいぜい2年に1回できるかなというところで、すごいなあと言われてますが、内容は大変なもので、県へ申請する補助金を頼りにしていますが、今後少しでも減らないよう、増えるどころか減っていきますので、どうぞ末永くお守りしていただきたいということをお願い申し上げました。よろしく願いいたします。

会長

よろしく私からもお願いいたします。ありがとうございます。

副会長

資料を見ていて気がついたことで、お願いと質問をさせていただきたいのですが、第2期の計画の2ページ、「文化と歴史」ということで、徳島のこれまでの流れを書いています。この中の2つ目の段落で、「三好長慶」が出ていまして、非常にいろいろな文化とか歴史がある中で、「三好長慶」をわざわざ書いていただいて、ありがたいと思います。ただ、現状では、あまり「三好長慶」を取り扱ったイベントや行事は少ないと思います。徳島県人会さんとか大阪に行きますと、いつも法被を着せられて、非常に盛り上がっているところもありますし、こういう計画でも取り上げていただいていますので、「三好長慶」が文化人だったという話もありますので、何かの機会で、ぜひまた取り上げていただけたら、と思うのが1つと、あと1つは部長の話にもありましたが、やはり今年は万博が非常に重大な、重要な大きなテーマだと思いますので、この万博の中で、徳島の文化を発信するような場面があれば、そのあたりのご紹介をしていただけたらと。

事務局

ありがとうございます。万博、この4月13日からいよいよ始まるというところですが、その中で、徳島県においても、「関西パビリオン」という、「関西広域連合」がやっておりますパビリオンの一部に、徳島県ブースを出展する予定です。この中で伝統工芸の展示や未来に向けた展示、あと、プロジェクションマッピングで祖谷のかずら橋と観光の情報等を発信していくという予定になっています。また、それ以外に4月30日から5月3日まで、ゴールデンウィーク期間中ですが、この中で、「テーマウィーク」と名付けてですね、「未来への文化共創ウィーク」と位置付けまして、こちらの方でも徳島県の文化発信をしていこうと計画をしております。その中では阿波人形浄瑠璃の実演ですとか、徳島の食材を活用した食文化の発信。あとはギャラリーを作りまして、その中で藍染関係の展示とか、そういったことを計画している状況と聞いております。万博は担当課が別にございますので、今申し上げたくらいの情報しかお伝えすることはできませんが、以上でございます。

会長

ありがとうございました。それでは時間もそろそろ押して参りましたので。先ほど「三好長慶」の話もありましたが、朝ドラは高知県ばかりで、何とか、徳島県も話題にしたような、文化的なドラマができればいいなと私も願っております。そういった期待も含めて、本日の審議会は終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。